

## 胃部検診の選択のめやす

当健診センターでは、胃部検診は**内視鏡**と**胃透視**があります。また、胃透視を選択された場合、検査前に胃の動きを抑える注射をしています。予約をされるときに、それぞれの**メリット**と**デメリット**があるため、下記を参考に予約をしてください。

		【メリット】	【デメリット】
胃透視	胃透視	<p>胃全体の輪郭を観察できる。 内視鏡の挿入の苦痛がない。 手軽に受けられる。 嘔気がない。 費用が安い。</p>	<p>胃の形は表面の凹凸の観察はできるが、粘膜の色調はわからず、診断まではできない。 そのため、疑わしい病変があれば、改めて内視鏡の検査を受ける必要がある。 食道は、バリウムがさらっと流れるため、小さな病変は見つけにくい。 まれに、誤嚥による肺炎やバリウムがなかなか排便できない場合は腸閉塞が起こる可能性がある。 (便秘傾向な人は不向き) バリウムの味や胃を膨らませる発泡剤が苦手な人もいる。 狭い検査台の上で身体を動かしたり、また、検査台を傾けるためレバーをもつ握力が必要である。 (麻痺や筋力低下のある人は不向き) 放射線の被曝がある。</p>
	: 検査前の投薬あり	<p>胃壁が動き過ぎないことで、胃壁が広がりやすく、バリウムが胃壁に付着しやすい。 そのため、正確な撮影が可能で病変の発見につながりやすい。</p>	<p>筋肉注射による痛みがある。 禁忌疾患がある。 薬の副作用がある。</p>
	: 検査前の投薬なし	<p>筋肉注射の痛みがない。 バリウムが排出しやすい。</p>	<p>胃の動きがあると、胃から腸へもバリウムがさらっと流れるため、病変が映りにくい。 胃の動きが抑制されないことで胃壁へのバリウム付着が悪くなり検査の精度が低下する。 体位を細かく変える必要があるため、検査に時間がかかることがある。</p>